

実験材料：

レジオネラ・ニューモフィラ 1 型（以下 L.p.1 と略）を 10,000CFU/100 ml になるように調整し、実験材料とした

残留塩素濃度 及び メカセラ・ボール	0 分	15 分後	30 分後	1 時間後	3 時間後	6 時間後	12 時間後	24 時間後	48 時間後
塩素濃度 0.1ppm	18,000	21,000	9,000	7,000	4,000	4,000	2,000	0	0
塩素濃度 0.2ppm	22,000	29,000	7,000	10,000	4,000	1,000	1,000	0	0

方法：L.p.1 に対する残留塩素濃度の影響

文献によれば、レジオネラ菌は残留塩素濃度 0.4ppm で 15 分以内に死滅すると言われている為、まず、残留塩素濃度がレジオネラ菌にどの程度影響を与えるかを調べた。

次亜塩素酸ナトリウム溶液を超純水で希釈し、最終残留塩素濃度が 0.05ppm、0.1ppm、0.2ppm、0.4ppm になる様に調整し、それぞれに上記の L.p.1 を加えてスターラーで緩やかに攪拌しながら 1 時間室温にて放置した。ブランクとして超純水のみに L.p.1 を添加したものを同様に放置して対比した。これらをレジオネラ専用培地 WYO - a 寒天培地に塗布し、6 日間培養を行ってレジオネラ菌の生菌数を調べた